

平成 16 年 9 月 21 日

国際石油開発(株)(インペックス)  
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号  
代表取締役社長 松尾 邦彦

### ACGプロジェクト第3開発段階作業の実施を決定

国際石油開発株式会社（インペックス）は、9月20日に、子会社インペックス南西カスピ海石油(株)を通じて10%の権益を保有するアゼルバイジャン領カスピ海海域に位置するACGプロジェクト【Azeri(アゼリ)油田、Chirag(チラグ)油田、Gunashli(グナシリ)油田深海部】の生産分与契約調印10周年の記念式典において、アゼルバイジャン共和国のイルハム・アリエフ大統領、グルジア共和国のズラブ・ジュヴァニア首相、およびトルコ共和国のヒルミ・ギュラー・エネルギー大臣の臨席のもと、他の国際コンソーシアムのパートナーと共に、本プロジェクトの第3開発段階作業の実施を決定する調印をアゼルバイジャンの首都バクーで行った。

本プロジェクトは、英国BPをオペレーターとする国際コンソーシアムにより、世界で有数の超巨大油田（可採埋蔵量54億バレル）を段階的に開発し2009年までに日産100万バレル以上の原油生産の達成を目指している。本プロジェクトの原油生産は、1997年よりチラグ油田において早期生産を開始し現在日産15万7千バレルで生産を行っているが、今後、逐次第1段階(アゼリ油田中央部、2005年生産開始)、第2段階（アゼリ油田西部・東部、それぞれ2006年・2007年生産開始）、更に、第3開発段階(グナシリ油田深海部、2008年生産開始)で開発作業を実施することとしている。

生産された原油は、現在はバクーから黒海のスピサに至るルート(西ルート)により輸送されているが、今後の増産に見合った輸送能力を確保するため国際コンソーシアムの主要メンバーによりBTC（Baku-Tbilisi-Ceyhan）パイプラインの建設が2002年9月から行われている。2005年に予定されるBTCパイプライン完成後は、主として同パイプラインで地中海のCeyhan（ジェイハン）まで輸送し、同地から出荷する計画である。インペックスは、BTCパイプラインにも2.5%の権益比率で参加している。

#### ※) 補足説明

1.アゼルバイジャン領南カスピ海に位置する既発見油田であるアゼリ油田、チラグ油田及びグナシリ油田深海部を対象とするいわゆるACGプロジェクトに係わる生産分与契約が1994年9月20日に国際コンソーシアムとアゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR)の間で

締結され、同年 12 月に発効している。

2.本プロジェクトは、アゼルバイジャン領カスピ海海域、水深 100m－ 400m に位置し鉦区面積は 432.4 k m<sup>2</sup>である。本プロジェクトでは既に旧ソビエト連邦時代に Khezerdenizneft によりグナシリ油田（1979 年）、チラグ油田（1985 年）およびアゼリ油田（1987 年）が発見されているが、旧ソビエト連邦時代は Gunashli 油田の浅海部の開発が行われるにとどまっていた。旧ソ連邦崩壊後、これらの油田はアゼルバイジャン領に属することとなり、上記①のとおり、対象鉦区の生産分与契約が締結され、1997 年 11 月よりチラグ油田において早期生産を開始し、2004 年 8 月末の生産量は日産 15 万 4 千バーレルに達し、累計で約 2 億 5,500 万バーレルを生産している。

3.本 ACG 油田の開発・生産を推進する国際コンソーシアムは、現在、当社(10%)、BP 社（権益比率 34.1%、オペレーター）、UNOCAL 社(10.3%)、SOCAR 社(10%)、Statoil 社(8.6%)、ExxonMobil 社（8%）、TPAO 社[トルコ国営石油会社]（6.8%）、Devon 社（5.6%）、伊藤忠石油開発（3.9%）、Amerada Hess 社（2.7%）、の 6 カ国 10 社で構成されている。

4.本プロジェクトの参加権益を直接保有する INPEX の子会社インペックス南西カスピ海石油(株)は、石油公団からの出資および債務保証、ならびに国際協力銀行を始めとする邦銀の協調融資を受けている。(現在の資本金は、53,594 百万円、出資比率は、インペックス 51%、石油公団 49%) 同社は 2003 年 4 月、ロシア共和国ルークオイル社が保有する 10%の権益を譲り受けた。

## ACGプロジェクト



## ACGプロジェクト拡大図

